

令和3年度 府立福知山高等学校三和分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針 (中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>府民の期待に応える学校づくりの推進</p> <p>1 「個を活かし、公に生きる」人間の育成</p> <p>2 基礎学力の向上と希望進路の実現にむけての、生徒個々の実態に応じた指導の徹底</p> <p>3 感じる力、考える力、行動する力、向上する力、関わる力 (5K力) の育成</p> <p>4 人間としての総合力の育成に向けた体験的教育活動の実践</p>	<p>(成果)</p> <p>1 学習環境の改善、生徒自身の学習に対する意識の向上等により、全体的に落ち着いた中で教育活動を行うことができた。</p> <p>2 進路面は、生徒・保護者との相談を継続的に行い、関係機関・就学相談員との連携を密にし、丁寧に進めることができた。3年生に対し保護者対象進路説明会を開催し、進路実現に向けて共通理解を得た。</p> <p>3 コロナ禍により学校行事は中止や縮小等となったが、生徒の意見を取り入れる等の工夫を行うことで、充実した活動になった。</p> <p>4 全教職員で個別の指導計画を作成する等、種々の困難等課題がある生徒の実態把握や指導の手立てが共有化でき、個々の生徒に応じた指導ができた。</p> <p>5 コロナ禍により、農業科、家政科での地域連携の回数は減ったが、取組の工夫を行うことで地域貢献に資することができた。</p> <p>6 農業科・家政科の連携による新商品(トマトジャム等)の開発を行い、SDGsの理解につなげることができた。</p> <p>7 農業科・家政科連携事業の京都フロンティア校の成果について動画で発表した。</p> <p>(課題)</p> <p>1 卒業後を見据え、4年間で身につけたい力の育成を目指し、教育活動全体についての教育効果を検証し、改善・整理等が必要である。</p> <p>2 特別支援教育の理解と研究をより一層推進する必要がある。</p> <p>3 生徒同士の理解を深める取組を進め、互いに尊重し合い高め合える学級・学校づくりに取り組む。</p> <p>4 農業科と家政科の連携をより一層強め、目標を明確にしなが、取組を推進する。</p> <p>5 ICTの効果的な活用方法も含めた授業改善及び評価方法等、新学習指導要領実施に向けた準備を一層推進する必要がある。</p>	<p>本年度学校経営の重点 (短期経営目標)</p> <p>1 基礎学力の定着</p> <p>(1) 「わかる授業」を実践し、基礎学力を定着させる。</p> <p>(2) 個に応じた指導により学習に対して努力を継続させ、やればできるという成功体験を通して、自信をつけさせる。</p> <p>(3) 規律ある授業環境の定着を目指す。</p> <p>2 原級留置・中途退学の防止</p> <p>(1) 生徒の実態把握に努め、個に応じた配慮・指導を行う。</p> <p>(2) 生徒個々に目標を立てさせ、学ぶ意欲をもたせる。</p> <p>(3) 基本的生活習慣の確立を促す。</p> <p>3 社会人になるための自覚を促す指導</p> <p>(1) 人権感覚を磨き、思いやりをもって他者と関わるができるようにする。</p> <p>(2) 販売実習や地域連携等の体験を通して、他者と協力することの重要性を認識させ、地域や社会の一員であることを自覚させる。</p> <p>4 生徒支援の研究と充実</p> <p>(1) 将来社会に出ることを見据え、スモールステップで課題を乗り越えていけるように、個に応じた指導や支援を充実させる。</p> <p>(2) 生徒個々の指導計画を作成し、支援を要する生徒の指導方法や授業の方法を研究し実践する。</p> <p>5 希望進路の実現</p> <p>(1) 保護者、各種関係機関と連携を深め、個に応じた進路選択進路実現を目指す。</p> <p>(2) 低学年からキャリア教育を充実させ、卒業後の進路を早い段階から意識させる。</p> <p>6 OJTの推進</p> <p>(1) 教職員が取組の成果や課題を共有し、改善に向けた方策を積極的に議論できる雰囲気を作り、チーム力を高める。</p> <p>(2) 農業科と家政科のコラボなど、学科・教科・分掌等を超えた横断的な取組を積極的に行う。</p> <p>7 適正な学校運営と安心・安全な学校づくり</p> <p>(1) 危機意識や防災意識を高め、日々の点検に努める。</p> <p>(2) 学校防災マニュアルにより生徒・保護者・教職員が共通認識をもつことにより、危機管理体制を確立する。</p> <p>8 家庭・地域・関係機関との連携の強化</p> <p>(1) 丁寧に家庭連絡・家庭訪問を行い、家庭との連携を密にし信頼関係を構築する。</p> <p>(2) 関係機関との連携・協働により、教育内容の充実を図る。</p> <p>9 府立高校特色化事業 (京都フロンティア校)</p> <p>(1) 農業科と家政科との連携を一層強化し、活性化を図る。</p> <p>(2) 発表する機会を多く設け、役割を付与することにより、主体的に考え、表現し、行動する力を磨く。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題									
組織・運営	・教育目標達成に向けた取組体制の確立	・学校経営計画に基づき、各分掌・学科・教科それぞれが教育目標達成に向け、一体となって取組を進められるよう環境や条件を整備する。 ・OJTを推進し、教職員間の密接な連携のもと組織的・協働的に業務遂行が行えるよう配慮する。	B B	B B	・多くの分掌においては所期の目標を達成できたが、コロナ禍の影響により十分でない面もあった。 ・教職員間のコミュニケーション不足が原因で意思疎通がうまくいかないケースがあった。								
	・生徒、保護者、地域のニーズに応える、開かれた学校づくりの推進	・生徒・保護者へのきめ細やかな対応により、個の特性に応じた丁寧な指導を行う。 ・体験セミナー・学校説明会や学校行事、PTA総会、各学科の取組やホームページを通して、昼間定時制や学科の特色を伝え理解を促す。 〔体験セミナーにおける参加者の満足度〕 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～80%</td> <td>79～65%</td> <td>64%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～80%	79～65%	64%以下	A B	A	・生徒個々の特性に応じた丁寧な指導を行い、生徒・保護者との信頼関係の構築ができた。 ・説明会や販売会等において回数は少ないながらも、本校の特色を来校者に伝えることができた。また、個別の見学等の希望にも積極的に応じた。
	A	B	C	D									
90%以上	89～80%	79～65%	64%以下										
・府立学校特色化推進事業（京都フロンティア校）に関する取組の継続発展	・各学科の取組を教職員全員が理解し、支援する。 ・両学科の連携をさらに緊密なものにするとともに学校全体で地域連携・地域貢献を進める。	A	A	・学科の特色を生かし、地域貢献や学科間の連携事業を積極的に押し進め、一定の評価を得た。									
事務部	・円滑で的確な窓口業務と分校全体を見渡した、教育環境の整備	・親切、丁寧な対応を心がけるとともに、援護制度等担任との連携を密にし、的確な事務処理を進める。 ・予算の有効活用と適正な会計事務を行う。	A A	A	・丁寧な対応ができた。 ・デジタル産業教育事業等、分掌や教科、学科等と連携して効果的で適正な予算執行ができた。								
	・危険個所の早期発見、早期改修と校内教育環境の安全衛生管理	・安全点検を定例化し危険個所の早期発見と迅速な対応に努める。 ・ゴミの分別回収と搬出、溝の消毒等校内の清潔、整理整頓に努める。	A B	B	・分掌・教科と常時連携するとともに、環境整備や危険箇所の改修等をその都度実行した。								
教務部 (図書・視聴覚)	・授業規律の確保と、基礎学力の定着を図る。	・授業を受ける5つのルールを示し、生徒指導部・学年部・学習支援担当と連携して授業規律の確保に取り組み、個に応じた指導により、進級・卒業を目指す。 ・学習課題のある生徒の基礎学力を定着させるため、教科担当者と連携し、丁寧で分かりやすい授業で、わかる喜び、学ぶ意欲を育てる。 ・個々の課題を明確にし、適切な指導を組み立て確実に実践するために各学年、他分掌と打ち合わせを行う。 〔打ち合わせ回数〕 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>20回</td> <td>19回～14回</td> <td>13回～9回</td> <td>8回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	20回	19回～14回	13回～9回	8回以下	B B A	B	・全体的には授業規律を守り、集中して学習に取り組めるよう指導ができた。 ・進級・卒業に向けて個別の指導計画により個に応じた学習指導ができた。 ・生徒の基礎学力の定着を促すため、新たな取組の検討が必要である。 ・各分掌との連携によりスムーズな時間割変更や緊急の変更にも対応できた。 ・個別の面談等で生徒・保護者との意思疎通を図った。
	A	B	C	D									
	20回	19回～14回	13回～9回	8回以下									
・基礎学力講座、トライ学習、ベーシック講座の充実	・生徒の基礎学力を向上させる。効果的な学習とするため、取り組み方の研修を行い、工夫改善に努める。 〔基礎学習年間優秀者数〕	B	B	・基礎学力の時間は、生徒達にとって効果的な学習となった。反復練習を積み重ねるなど、内容の工									

		A	B	C	D		
		6人以上	5または4人	3人	3人未満		
		<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力テストの結果を基礎学習や教科指導に活用する。 				B	<ul style="list-style-type: none"> 夫を教職員で共有する必要がある。 基礎学習を経て、その後の補習はさらに個別の指導ができた。 来年度以降、生徒の個別の学力向上を図るため、トライの時間の内容を検討する必要がある。
	・教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> 学科・各教科の成果と課題を明らかにして、新教育課程を編成する。 				A	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に基づく新たな教育課程を構築することができた。
	・授業内容の精選と評価の工夫・検討	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の精選に努め、評価についての課題を共有し、解決に向け研修する。 きめ細かな学習指導を行い、教育効果を高めるため、適切な教材の選定を行う。 				B	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領の実施に向けた教材選定を行った。 観点別学習評価の実施に向けて、各学科で研修を行った。
	・校務システムのスムーズな運用	<ul style="list-style-type: none"> 授業時数の確保、指導要録・出席簿等の表簿の適正な管理を行うことにより、教育計画の適正な実施を図る。 校務システムに係るOJTを行う。 				B	<ul style="list-style-type: none"> スムーズな校務システムの運営ができたが細かな運用の共有が課題である。 システムに関わるOJTが課題である。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感の育成及び基本的な生活習慣の確立と規律ある授業環境に向けた指導 	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌と協力し、全ての生徒が落ち着いて、前向きに、学校生活を送れる環境作りを行う。 				A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にとっても落ち着いた学校生活を送れている。 他者との関係作りや自己理解が難しい生徒が多いが、自己肯定感を持たせられるように個人の特性に応じた指導を心がけた。 「ルーブリック」の取組を進めることで、声を出して自分から朝の挨拶ができる生徒も増えており、服装頭髪が乱れている生徒も少なくなっている。
		<ul style="list-style-type: none"> 特別活動や部活動など他者との関係をとおして自分の強みを見つけ、自己肯定感を育む教育を行う。 				A	
		<ul style="list-style-type: none"> 卒業後に社会に出ることを意識し、社会性やコミュニケーション能力育成のため、挨拶や場に応じた言葉遣い、身だしなみを日常的に指導する。 				A	
	<ul style="list-style-type: none"> 納得と説得を基本とする丁寧な生徒指導の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の事情や特性、家庭の状況に配慮し、適切な指導方針を考え、丁寧な指導を行う。 				A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の特性や家庭状況に配慮した指導を行うことができた。
		<ul style="list-style-type: none"> 教職員全員で指導方針を共有し、本人はもちろん家庭にも理解と納得のいく粘り強い指導を行う。 				B	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動を起こす生徒がいなくなる中で、それぞれの生徒の特性からくる特別指導未満の行動に気づき、道徳観を育てる。
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動の活性化と自主性の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭や文化祭などの特別活動において生徒会やクラスの取り組みを、また、放課後の部活動を活性化させ、生徒の自主性や社会性を育てる。 				A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中で、生徒たちの意見を取り入れながら感染防止を考慮した形で生徒会行事を行うことができた。 恒例の地域清掃を行った。
		<ul style="list-style-type: none"> 委員会や係、学校行事、ボランティア活動等をとおして、責任感や他者への思いやり、助け合いの精神を身に付けさせる。 				A	
	・希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 4年生との相談活動等の充実を図るとともに、家庭及び 					<ul style="list-style-type: none"> 4年生については、生徒及び

進路指導部	<p>関係機関・就職支援教員等とも緊密に連携する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試・就職試験等に向けて丁寧な指導を行い、生徒全員の希望進路の実現を目指す。 ・希望進路の決定・実現に向け低学年時からの指導を推進する。 <p>[2学期個別面談時の進路指導件数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>45件以上</td> <td>44件～36件</td> <td>35件～27件</td> <td>27件未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	45件以上	44件～36件	35件～27件	27件未満	B		<p>保護者との相談を継続的に行い、関係機関・就職支援教員との連携を密にし、個に応じた指導を丁寧に進めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～3年生徒の個別面談を2学期に実施し、卒業後の進路について指導した。 ・4年生の進学希望者に出願書類等の指導を実施した。
	A	B	C	D								
	45件以上	44件～36件	35件～27件	27件未満								
		<p>・4年制大学・短期大学・看護系上級学校進学希望生徒を対象とした模擬試験の年間実施計画を必要に応じて作成する。</p>	A	B								
・援護制度の紹介と活用	<p>・個々の生徒の進路希望や経済的な課題等をより早期から丁寧に把握し、進路にかかわる費用や援護制度に関する情報を適切に提供する。</p>	A	A									
・職業指導・キャリア教育の改善・充実及び教員の進路指導力の向上	<p>・職業・キャリア教育にかかわる行事の見直し・改善を行う。</p> <p>・キャリアパスポートに関する教職員研修を実施する。</p>	A	A									
保健部	<p>・健康診断後、生徒の健康状態を的確に把握し、必要に応じて個別指導・面談を行う等、事後指導の充実を図る。</p> <p>・生活アンケートを定期的実施し、生徒の生活実態を把握するとともに、ほけんだより等を活用し、生活の見直し、改善を図る。</p> <p>[ほけんだよりの発行回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6回以上</td> <td>5回</td> <td>4回</td> <td>3回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	6回以上	5回	4回	3回以下	B		<p>・健康診断の結果により、個別の指導を行い受診を促したり、日々の健康観察を行うことができた。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症対策のため、基本的な生活習慣の声かけや昼食時の放送などを行った。</p> <p>・歯科の受診生徒対象者が多いことが、校医とも連携した保健指導や個別の指導が必要であるとともに課題である。</p>
	A	B	C	D								
	6回以上	5回	4回	3回以下								
・教育相談活動の充実	<p>・教職員や専門機関等との連携を的確に行い、生徒へのきめ細やかな指導と支援をする。</p> <p>[気になる生徒の状況調査回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6回以上</td> <td>5回</td> <td>4回</td> <td>3回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	6回以上	5回	4回	3回以下	A	A	
A	B	C	D									
6回以上	5回	4回	3回以下									
・環境美化活動の充実	<p>・学習環境が清潔に整然と保たれるよう、環境美化委員会を中心に呼びかけを行い、福知山市のゴミ分別を徹底する。</p> <p>[ゴミ分別チェック実施回数]</p>	A	A									
				<p>・気になる生徒の状況については教職員で共有し、特別支援会議で連絡、指導の検討を行うことができた。</p> <p>・欠席過多の生徒に対しては、家庭訪問等も含めて、保護者との連絡を密に取り、相談することができた。</p>								
				<p>・HR教室のゴミ分別チェックやゴミ収集所の当番を通じてゴミ分別を行い、地球環境問題への意識を高めることができた。</p>								

			<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3回以上</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>0回</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3回以上	2回	1回	0回			<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの学習環境を整えることにより学習に集中することができた。
A	B	C	D											
3回以上	2回	1回	0回											
	・安全点検の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検表の見直しを行うとともに生徒と教職員による校舎内外の安全点検を定例化し、学習環境を整備する。 <p>[安全点検の実施回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3回以上</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>0回</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3回以上	2回	1回	0回	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員の生徒と教職員による安全点検により、安全な学習環境の保持と清掃活動を行うことができた。 ・手洗い・消毒の意識が高まり、自分の健康安全も考えることができた。 	
A	B	C	D											
3回以上	2回	1回	0回											
人権教育部	・人権意識の高揚と、自他を尊重できる集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育会議を開催し、日常的に点検確認するとともに、人権意識が高められる人権学習に関して研究し計画する。 <p>[人権教育会議の開催回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	2回以下	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・会議は学年会に部長が出る形で数回開催し、学年ごとの取組も実施できた。 ・人権アンケートは今年度も3学期末までに実施する予定である。 ・保健部や生徒指導部主催で教職員研修を行った。また、生徒層の変化にもなって道徳教育を推進した。 	
		A	B	C	D									
5回以上	4回	3回	2回以下											
<ul style="list-style-type: none"> ・人権アンケートの結果を生かし、講演等を計画する。また、いじめやかからかいなどの問題について、生徒指導部、学年部と連携して対応する。 	B													
	・きめ細かな、就・修学援助	<ul style="list-style-type: none"> ・各種奨学金等について、保護者・担任・事務・各関係機関と連携を図り、速やかに案内や指導、申請をする。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各種奨学金や補助についての案内・連絡・必要な手続きを行った。 									
		<ul style="list-style-type: none"> ・通学費補助や、進学・就職支度金等に関する手続きなどに的確に対応する。 	A											
学習・特別支援	・生徒の実態把握と支援体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、教科担当者との連携を密にし、面談の機会を利用するなどして生徒の実態把握に努め、必要な生徒への具体的な支援目標と方法を検討する。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・担任と連携し、生徒の実態把握に努めた。また、具体性のある支援目標を立て、夏の面談などで担任から本人・保護者とともに確認することができた。 									
		<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育連絡調整会議を開催し、支援を要する生徒の特性・問題状況の確認及び支援員の配置の調整等を行う。 		C	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、全体での連絡調整会議は3回の実施にとどまった。来年度は内容を吟味したうえ、計画的な実施を計画したい。 									
		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてケース会議等にもつなげていく。 <p>[会議開催回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>5回</td> <td>4回</td> <td>3回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	6回	5回	4回	3回以下	D			
A	B	C	D											
6回	5回	4回	3回以下											
	・個別の指導支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画作成にあたり、担任や教科担当者と協力し、アセスメント表の作成・充実を図る。 ・個別の指導計画は、本人・保護者の思いを踏まえて作成し、互いに共通理解が図れるよう連携・相談を進める。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、教科担当者の協力を得て、個別の指導計画の作成、中間見直し、生徒・保護者との共通理解を図ることができた。 									
	・指導支援方法等の研究及び共生社会の実現に び集団の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携し、教職員研修や巡回相談活用の機会をさらに充実させる。 ・関係分掌と連携し、障害についての理解を深めるための教職員研修を実施し、障害について正しく学ぶ機会を設ける。 	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの関係もあり、外部による研修を積極的にすることができなかった。動画による教職員研修を実施した。 									
	・移行支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・入学生について、中学からの個別の移行支援シートをもとに、必要な配慮等がある場合には早期に担任・保護 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・移行支援シートをもとに一人一人に対応を検討することができ 									

		者と連携・相談し、対応を検討する。 ・進路部と連携し、必要な生徒及び保護者との継続的な相談活動や、関係機関との連携等を進め、移行支援の充実を図る。	A	A	た。しかし、全体での共通理解をもう少し丁寧に行う必要を感じた。 ・生徒の実態に応じて進路を検討し、本人・保護者への情報提供を行うことができた。								
学年部	・確かな人間力の向上	・普段の挨拶や言葉遣い、丁寧な字を書く力、時間厳守など社会で通用する力を向上する為、日頃の指導を徹底する。	A	B	・卒業後を見据え、三和分校に在籍中に身に付けてほしい力を「ルーブリック」として、目指す人間像を示した。学期ごとに振り返り自身の成長を感じやすい環境を整えた。								
	・生徒が集中できる授業環境の確立	・授業を受ける5つのルール of 定着を目指し、統一した指導を徹底する。	B										
	・希望進路の実現	・4年間を通して、進路への意識を高め進路実現を目指すために、生徒に適切な情報を提供する。また、低学年からの進路指導を推進するために進路指導部と連携して1～3年生の個別進路面談を実施する。 〔1～3年生の進路面談実施率〕 <table border="1" data-bbox="779 582 1451 646"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>75%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	100%	75%以上	50%以上	50%未満	A	B	・進路指導部と連携し、進路希望調査や就職ガイダンスを行うなど、進路への意識を高めた。随時、面談等を行い、丁寧な指導ができた。 ・各分掌と連携し、個に応じた丁寧な対応が出来た。
			A	B	C	D							
100%	75%以上	50%以上	50%未満										
B	・アルバイト等の就労体験を奨励し、進路指導部、生徒指導部、特別支援教育コーディネーターと連携を図り、個に応じた指導をする。												
・情報の共有	・面談や家庭連絡を丁寧に実施し、個々の生徒の課題や特徴を把握し、日々の指導において、効果的で迅速な対応をする。 ・日頃から生徒に対する教職員間の情報共有を図り、個々の生徒の共通理解に努める。定期的に学年部会を行い、統一した指導を徹底する。	B	B	・家庭との連携を密に取り、些細な変化を見逃さないよう、効果的な対応ができた。 ・定期的に学年部会を開き、情報を共有し、統一した指導ができた。									
		B											
・研修旅行の計画・実施	・研修旅行の成功に向け、生徒とともに準備し、安全で効果的な教育活動となるよう取り組む。 ・感染症対策を講じた中での実施となるので生徒・保護者への、より丁寧な説明と案内を行う。	A	A	・コロナ禍の影響により、日程や旅先の変更などがあったが、生徒にとっては非常に良い経験となり協調性や規律が向上するなど良い成長へと繋がった。									
		A											
農業科	・農業に関する専門知識や技術の学習を通して、「生きる力」を身につけていく	・各学年ごとの生徒の実態に応じた学習内容を検討し、指導方法の工夫をする。 ・実習では体験的で実践的な授業を通して、生徒にチームワーク、コミュニケーション、プレゼンテーションの能力開発に努める。	A	B	・生徒の様子を見ながら、学習内容を検討し実際の指導ができた。 ・実習では、課題研究も含めプレゼンテーションの能力の開発の指導が難しかった。								
	・地域連携の推進	・農場生産物の販売を積極的に行い、地域から必要とされる農場運営を行う。 ・福知山市や地域の企業と連携した取組を充実させる。 〔連携回数〕 <table border="1" data-bbox="779 1364 1451 1428"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </table>	A			B	C	D	5回以上	4回	3回	2回以下	A
			A	B	C	D							
5回以上	4回	3回	2回以下										
・希望進路実現のための資格取得等への取組	・校内行事や府連各種行事に積極的に取り組み、農業クラブ活動の更なる活性化を目指す。	B	・府連大会、各種競技会への出場も積極的に参加できた。その結果										

	<ul style="list-style-type: none"> ・農業関連資格取得に意欲的に取り組ませる。 <p>[小型建機受講者数]</p> <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>6人以上</td><td>5人～4人</td><td>3人～2人</td><td>1人</td></tr> </table> <p>[ワープロ検定受検者数]</p> <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>10人以上</td><td>9人～7人</td><td>6人～5人</td><td>4人以下</td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・教育長表彰取得率の向上を目指す。 <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>80%以上</td><td>79%～50%</td><td>49%～20%</td><td>20%未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	6人以上	5人～4人	3人～2人	1人	A	B	C	D	10人以上	9人～7人	6人～5人	4人以下	A	B	C	D	80%以上	79%～50%	49%～20%	20%未満	A	A	<p>全国大会にも出場し優秀を獲得できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業クラブ活動においては、生徒が行事に積極的に取り組めることが多くなった。 ・講習会当日の欠席者もあり、対応に苦慮したが、生徒は積極的に受講しようと感じられた。
A	B	C	D																									
6人以上	5人～4人	3人～2人	1人																									
A	B	C	D																									
10人以上	9人～7人	6人～5人	4人以下																									
A	B	C	D																									
80%以上	79%～50%	49%～20%	20%未満																									
	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな資格取得にチャレンジさせていく。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい資格として、色彩検定を取り入れたが難易度が高く、合格者は少数であった。 																								
	<ul style="list-style-type: none"> ・家政科・各教科との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・家政科との連携をさらに深め、現在行っているコラボ授業や合同授業を充実を行う。 ・文化祭で普通科と連携した取組活動を行う。 ・加工室設置に向け、家政科と有効的な活用方法について検討を目指す。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コラボ授業についてのあり方の検討がさらに必要であった。 ・加工室設置に向けては、家政科と連携ができています。 ・普通科目との連携を検討する必要がある。 																							
家政科	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的専門的な知識・技能の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習等を通して基礎的・基本的な知識・技術の修得を図り、学習したことを実生活に活用する意識や態度を養う。 <p>[フードデザイン・ファッション造形の実技テスト回数]</p> <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>5回以上</td><td>4回</td><td>3回</td><td>2回以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	2回以下	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・実技テストを考査期間中に各科目で実施した。知識・技能の習得に効果的であった。 ・同じ教材を繰り返し、技能の習得に繋げることができた。 															
	A	B	C	D																								
	5回以上	4回	3回	2回以下																								
		<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領実施に向け、生徒に付けたい力とそのための教材について検討し、教育課程を編成する ・観点別評価の円滑な実施に向け、1年間かけて準備をする。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価の実施に向け、試行した。新年度までに評価計画を完成させたい。 																							
<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な学習の構築と積極的で前向きな集団活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態を考慮した上で食物・被服検定を計画的に実施するとともに、合格率60%を目指す。 <p>[検定4級の合格率]</p> <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>60%以上</td><td>59～50%</td><td>49～40%</td><td>39%以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	60%以上	59～50%	49～40%	39%以下	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4級の合格率は食物25%、被服100%であった。保育検定や3級取得を生徒に呼びかけ、挑戦できた。 																
A	B	C	D																									
60%以上	59～50%	49～40%	39%以下																									
	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科技術検定3級等、上級の資格取得に挑戦する取組を進める。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・3年生と家庭クラブ役員が中心となり、文化祭では新たな取組に挑戦できた。 																								
<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根付いた教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人講師活用事業や地域の福祉施設への訪問を通じて、教育活動の充実と活性化を図る。 ・家政科の教育活動を広報するため、ホームページの定期的な更新を行う。 <p>[家政科HP更新回数]</p> <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>10回以上</td><td>9～8回</td><td>7～6回</td><td>5回以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	10回以上	9～8回	7～6回	5回以下	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園・福祉施設での実習等、校外学習がすべて中止となった。生徒が地域への理解を深める機会や方法等について検討していきたい。 ・学科の取組をホームページで紹介した。地域のイベントの多くが中止となり、年度当初の計画通りにはできなかった。 															
A	B	C	D																									
10回以上	9～8回	7～6回	5回以下																									

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭クラブ活動の充実と、社会性の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭クラブ活動を計画的に運営し、活動の充実・活性化を図る。 ・各科目の授業と家庭クラブ活動を組み合わせ、教育効果の向上を図る。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の計画を変更・修正しながら、役員を中心に活動し、計画的で自主的な運営ができた。 ・多くの生徒が責任感を持って自身の仕事に取り組めた。 ・計画していた校外での活動が感染症の拡大等の理由により実施できなかったが、農業クラブ全国大会の応援など新たな活動も工夫できた。 								
	<ul style="list-style-type: none"> ・農業科との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに連携を進め、系統的な農業科とのコラボ授業（合同授業）を計画・実施する。 〔計画・実施回数〕 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3回以上</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>0回</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・農業科の生産物を使った商品の考案に取り組む。 ・食品加工室の教育課程への位置付けについて協議し、学習指導計画を作成する。 			A	B	C	D	3回以上	2回	1回	0回
A	B	C	D									
3回以上	2回	1回	0回									
		A										

学校運営協議会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・三和分校の存在として、周囲から求められている役割は大きいものがある。 ・「分校だより」等から、学校の様子が分かり、他の学校ではできないような体験や学習ができていると思う。 ・各種大会やコンテストで入賞されたが、これは教育活動を行ってきた成果で、今後も続けてほしい。 ・特別支援学校と連携をされているが、さらに福祉関係や専門機関とも連携を緊密にされるといい。 ・キキョウの配布等、市の取組にも三和分校は関わっていて、地域の活性化にもつながっている。 ・教職員数が限られた中での教育活動をさらに発展させるために、コーディネーターやNPO法人等の外部の力を利用する方法がある。 ・三和分校の取組を地域にも知っていただくためにも、広報に力をさらに注いでほしい。
--------------	---

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後を見据え、4年間で身につけたい力の育成を目指し、教育活動全体についての教育効果を検証し、改善・整理等を図る。 ・多様な生徒の実態把握に努め、引き続き教職員全体に情報を共有し、教育活動を行う。 ・特別支援教育の理解と研究をより一層推進し、一人ひとりの成長に向けた支援をより具体的に行っていく。 ・生徒同士の理解を深める取組を進め、互いに尊重し合い高め合える学級・学校づくりに取り組む。 ・加工室等の教育環境を活かし、農業科と家政科の連携をより一層強め、目標を明確にししながら、取組を推進する ・B Y O Dが始まるにあたり、I C Tの効果的な活用方法も含めた授業改善及び評価方法等、新学習指導要領の理念に基づいた教育活動を進める。
---------------	---